

行政視察報告書

令和2年2月3日

焼津市議会議長 鈴木 浩己 様

無会派 岡田 光正

下記のとおり、合同にて視察を行いましたのでその結果をご報告いたします。

1. 期 間：令和2年1月27日（月）～ 29日（水）

2. 視察先：大分県臼杵市・豊後大野市

3. 視察の概要（調査事項）

（1）臼杵市

有機の里うすきについて

（2）豊後大野

①環境保全型農業について

②インキュベーションファーム事業

4. 視察内容

1月27日（月）

臼杵市

【有機の里うすき】

説明者：農林振興課長 矢野 晃 様 同有機農業推進室 目原室長様

I. 臼杵市の概要

臼杵市は、大分県の東南部に位置し、東は豊後水道に面した臼杵湾に臨み、南西部は鎮南山・姫岳など比較的険しい山稜が津久見市、佐伯市と接し、河川は、野津川が南西部を東西に流れ、臼杵川・末広川・熊崎川が臼杵湾に注ぎ、これらの河川沿いには水田が、野津地域の北側には畑地が広がっています。

気象は、瀬戸内海型と南海型が混在し、年間平均気温は15～17度、平均降水量は1,500～1,800ミリメートルで、温暖多雨の自然環境に恵まれています

■総面積：291.08 km² ■総人口：37,407人（4/1現在）



II. 調査項目（有機の里うすき事業）

*調査項目について以下のとおり質問し回答をいただきました。

1. 「臼杵市食と農業基本条例制定の当初目的

地域における食と農業の諸課題、を背景に、自然環境との調和、地産地消のさらなる促進、食と農業の信頼関係に重点を置いた農業のあるべき姿が必要とされてきた。

農産物が元気に美味しく育つためには「土」と「太陽」「水」の力が必要
臼杵市は“うすき夢堆肥”で土を元気にし、ほんものの味がする農産物を食べることができる幸せな臼杵市をつくることを目的に議員提案による条例として平成22年3月制定した。

2. 基本的施策の内容とその推進内容について

ほんまもんの里みんなでつくる臼杵市食と農業基本計画にしたがって以下の基本計画を推進していくこととなった。(10年計画)

- ・安心安全な食糧の供給
- ・持続可能な農業の振興
- ・活力ある農業の振興
- ・環境に配慮した農業の推進

3. 有機農業の推進について

- ・臼杵市の自然環境、生物の多様性を保全する田畑・農村の役割を再認識し、化学肥料や化学合成農薬に頼らない農業を進める必要があります。
本来の健全な田畑に戻していくために「うすき夢堆肥」等による土作りに重点を置き安全で美味しい農産物作りを目指す。

5. 臼杵ブランドの推進による食と農業の振興の経緯とその効果

- ・有機野菜の生産規模の拡大により学校給食センターの有機野菜使用が増加
- ・地産地消の面でも役に立っている
- ・ほんまもん農産物認証を市独自で行うことにより野菜作りの目標が明確化
- ・ほんまもん農産物お届け隊研修制度からアグリ起業学校（ピーマン）研修生制度が開始（毎年3組程度1年研修）卒業後ピーマン生産者として起業
- ・ピーマン・甘藷・の部会員（農家数）増加（うち3割が市外から）
- ・出荷量10年でほぼ倍増、販売額に至ってはピーマンが5億円増加など
- ・出荷組合の設立などもあり効果が出ていると思われる。

4. 土づくりセンターについて

- ・自然に近い完熟堆肥を人工的に製造し、安全・安心で健全な農業振興を図り「ほんまもん農産物」を収穫することができるためにはまず土作りからと行うことで平成22年「土づくりセンター」を竣工させ、年間1,600吨の堆肥を生産（市内のみ販売：屯@5,000円）



Ⅲ. 所感と参考事項

まず、第一に当初施策の原点である条例が議員提案であったこと。そして諸施策が国の政策の前に実施されていったことなどを聞き大変驚きました。

安心・安全な食糧の供給から食育の推進、地産地消の拡大へと進み、持続可能な農業の振興のために基盤の整備、農地の有効利用さらには担い手不足対応、定住促進に新規就農者、集落営農による活性化などを順次施策として掲げ、成果を上げていることにすごさを感じました。

それには担当課の職員さんの知識の豊富さ、真剣に取り組む姿勢が大切であることを実感させられました。

1月28日（火）

豊後大野市

I. 豊後大野市の概要

豊後大野市は、平成17年3月31日に三重町、清川村、緒方町、朝地町、大野町、千歳村、犬飼町の5町2村が合併して誕生。

大分県の南西部、大野川の中・上流域に位置し、盆地状をなしている。起伏に富み、かつ複雑な地形を活かすとともに、大小の河川を集めて別府湾に注ぐ大野川の豊かな水利があり、県内屈指の畑作地帯を形成しています。気候は南海型気候に属し、平地気候と山地気候のほぼ中間にあり、四季を通じておおむね温暖で、一部の山岳地帯を除いては、平坦地の平均気温は15～16℃と極めて農耕に適しており、古くから農業を基幹産業として発展してきました

面積は603.14km² 人口35,718人

II. 調査項目【環境保全型農業について】

説明者：農業振興課

農業振興係長 井上 祐昭 様

赤嶺産業建設常任委員会委員長のご挨拶に始まり農業振興課の皆様にお忙しい中丁寧な説明をいただきました。



* 調査項目について以下のとおり質問し、回答をいただきました。

1. 環境保全型農業を提唱した基本コンセプトについて

- ・ 農業分野においても地球温暖化防止や生物多様性保全に積極的に貢献していくことが重要となっているため、環境保全型農業の促進を図る。

2. 環境保全型農業直接支払交付金事業について

- ・ 支援の対象となる取組の前提条件として「化学肥料・化学合成農薬の使用を都道府県の慣行レベルから原則5割以上低減する取組」がある。

その取組と合わせて、全国共通取組または地域特認取組を行った場合に

支援を行うこととしている。(農水省の取組の手引きに従う)

- ・カバークロープ(緑肥)の作付け 市の補助によりレンゲの作付けを行い水田の堆肥に施用
- ・大分県の地域特認取組
冬期湛水管理、緩効性肥料の利用及び長期中干し

3. 土と肥料の問題について

- ・土づくりに関しては、前年度の稲刈り前又は稲刈り後にレンゲの種を蒔き、田植え前にレンゲをすべてすき込む。また、年に1回土壌分析を行っている。
- ・肥料に関しては、「化学肥料・化学合成農薬を5割減」であるため、特別栽培米の栽培暦に沿って栽培している。

4. 栽培する野菜の種類は増やしていくのか限定するのか

- ・作物の種類は農業者に任せているが、支援対象となる作物は『大分県の観光基準』によって決められているのでその範囲に限定される。

5. 現状の問題点と今後の対応について

- ・農業社の高齢化、後継者不足等により取組を行う農家が減っている。
- ・生物多様性や有機農業等に関する講演会や研修会を開催し、環境保全型農業に関する理解を深めてもらう。

III. 所感と参考事項

農業を基幹産業として発展する豊後大野市にあつて、将来にわたって「農地を活かす、人を活かす」農業を目指して、ピンチをチャンスと捉え担い手対策に基づく構造改革の推進から生産構造の改革、販売等に至るシステム作りまでを市一丸となつて振興計画を推進している姿勢に担当職員の知識の豊富さとともに施策に対する熱意が伝わってきました。

我が焼津市でも水産・農業両面の構造的改革を全市を挙げて推進していく時期ではなかろうかと思う。

調査項目その2 【インキュベーションファーム事業について】

説明者：農業振興課

課長補佐 阿南 博和 様

豊後大野市では新規就農者を確保するため、平成24年1月から「新規就農者技術習得研修施設（インキュベーションファーム事業）」に取り組んでいます

* 調査項目について以下のとおり質問し回答をいただきました。

更にご配慮いただき現地に伺い、研修生から感想等を聞くことができました。

1. 事業の概要について



・インキュベーションファームでは、平成22年より、毎年ピーマンで農業経営を目指す研修生を受け入れ、JAのピーマン部会やファームに配置した営農指導員等の指導で、西日本一の産地を誇る夏秋ピーマンの栽培管理の実践研修や、農業簿記等の農業経営研修を行い、ピーマンを主とした農業起業者の新規就農を目指しています。

研修をスムーズに行うために、宿泊施設や研修圃場（畑）を完備、研修中、研修後の様々なサポートも充実している。

2. 定住促進にどのように役立っているのか

- ・全国から広く若い農業起業者（新規就農者：IターンJ、Uターン）を基本的に募集
- ・平成24年から17組34名が定住、営農、子どもができ今後の人口増もある。

3. 事業における行政の具体的な役割、関わり方について

- ・東京の交通会館での説明会や、各地で開催の新規就農のための相談会等に職員が出かけ面接を行う。
- ・研修生や卒業生への農地と家の確保賃貸、購入等に必要な基盤の整備（法的な対応等）契約等にあたり行政でないとわからない点は積極的に対応援助を行う。特に農地の斡旋や住宅確保のための空き家情報の提供を行う。
- ・経営を開始するに当たってピーマンハウス及び農業用機械導入の補助事業を用意している。

4. 農協などとの関係はいかがか

- ・JAには販売先の確保、ピーマン部会での対応などをやっていただいている。

5. 今後の課題と方向性について行政としての対応は？

- ・販売先の継続的確保をJAさんとともに考えていく
- ・営農指導者の後継者の確保が必要である

続いて午後に場所を変え、研修施設訪問

新規就農者技術習得研修施設の研修生から様々な意見を聞くことができました。



2のⅢ. 所感と今後の参考事項

HPへの上げ方や、説明会の工夫により問い合わせが多くなることを実際に研修生等の言葉で聞いたことは大変参考となった。

また、研修生が豊後大野市の本ファームに決めたのは異口同音に市の職員の方の熱意とともに先輩や周りの方々の温かみをあげられていたことに、如何に職員の方のやる気本気が必要かと感じさせられました。

焼津も負けてはられませんね。

以上